



河村纖維株式会社

葛城納稅協会会长

かわむらけんいち
河村 憲一氏
代表取締役会長

女性向けのレッグケア商品 などを製造

添田●御社の事業内容を教えてください。

河村●当社は昭和33年に創業し、靴下やレッグケア商品、パンティーストッキング（パンスト）、インナー・ウェアなどの企画・製造・販売を行っています。自社ブランド商品だけでなく、委託者のブランドで商品を設計・生産するODMも多く手掛け、国内外のトップメーカーに供給しています。

河村●創業のきっかけは?

河村●紳士用靴下の製造から始まり、昭和37年には海外で開発されたシームレスストッキングの製造機を日本でいち早く導入しました。当時はシームありのストッキングが全盛の時代でしたが、シームレスが非常に好評で、シームありのものと入れ替わり

「奈良」での一貫生産にこだわり 地域に愛され続ける靴下メーカー

つて一気に広まつていきました。

その後は、海外モデルさんが一大

ピーコク時には年間12億足が国内で製
造され、消費されていました。

の体型は立体的なので、それに合わ
せた「成形肌着」を製造しました。

ミニスカートブームを巻き起こした
ことでパンストが流行し、その製造

新商品開発で勝機を掴む

にも乗り出しました。

添田●流行に合わせて商品の幅を拡
げていったのですね。

河村●また、手作業で製造していた
パンストが自動化されたことで、一
般の方でも買いやすい価格になり、

河村●しかし、ここ最近はパンスト
離れが進んでいます。1990年代
に生足ブームが訪れ、今ではパンス
トを履かないファッションが一般的

になりました。販売数はピーコク時の
2割、約2億4000万足まで減り、
さらにその半分は海外からの輸入品
となっています。

添田●そんなにも需要が減つてしま
つたのですね。

河村●そこで、このまま同じことを
続けるだけではいけないと考え、今
までの設備を生かした新商品の開発
に挑戦しました。

一貫生産と国産品への こだわり

添田●具体的にはどのような商品で
すか。

河村●初めに着手したのは女性用イ
ンナーシャツです。男性と違い女性

添田●御社の強みを教えてください。

河村●糸づくりから、編立、縫製、
染色、仕上げ、検査・包装まで、一



インタビュー 添田尚子（そえだ・しょうこ）

フリーアナウンサー。これまで『かんさい想い出シアター』
『ぐるっと関西おひるまえ』（NHK）などに出演。趣味は、
短歌・ヨガ・英会話・ポストカード集めなど。



国産品にこだわることは、伝統ある繊維産業の地 「奈良」に生まれた企業としての誇りです。



レッグケア商品などを編み立てる機械がずらりと並ぶ。



染色後は生地を型板に入れて乾燥・検査を行う。

貫生産を徹底しているところですね。

添田 糸づくりというのは?

河村 ● スパンデックスという伸縮性のある素材にナイロンの糸を巻きつけ、ストレッチ性のある材料をつくる工程です。編立工程では片足分の生地を量産し、縫製工程でつま先を縫つたり片足ずつの生地を一つに縫い合わせて両足の生地にしたりします。そして染色、乾燥、検査等を行

い出荷となります。

添田 一貫生産をされているところは珍しいのですか。

河村 ● そうですね。特に染色については環境の問題があるため、簡単に導入できませんから。この作業を外注している企業は多いと思います。

また、当社では「国産品」にこだわり続けています。原材料の糸から全て日本製で、生産は全て奈良県の

自社工場で完結させています。国産へのこだわりは様々な困難を伴いますが、高品質で確かな商品をお客様にお届けしたいですね。

添田 御社では工場見学の受入れもされていますね。

河村 ● はい。小学3～4年生の社会科の授業の一環で、地元企業の工場見学があるようです。毎年数多くの

小学校から依頼があり、全て受け入れるようにしています。

添田 どれぐらい続けられているのですか。

河村 ● 30～40年ぐらいでしょう。

地域に貢献できることを誇りに思いますし、子どもたちが家に帰った後、地場産業のことを家族との会話の中で話題にしてもらえるだけでも嬉しいですね。何度も会社の採用面接のときに「小学生のときに見学させていただいて…」と言つてくれる方もいて、この取組みを続けていて良かったなと思います。

今後の展望

添田 ● 特に力を入れて取り組んでいることはありますか。

河村 ● ここ数年でいうと、医療用弹性ストッキングの製造に注力しています。このストッキングは、着用することで特定の病気を治療したり、むくみや血栓などを予防したりする効果があります。

メディカル分野は靴下などと違いシーズンや流行がなく、デザインの変更もありません。極端にいうと機能面を徹底するだけで、季節に限らず安定したモノづくりができるというメリットがあります。メディカル分野はまだまだ伸びしていくと思っています。

添田 ● 今後の展望はいかがですか。

河村 ● 創業時から製造してきた靴下やパンスト、売上げの多くを占める着圧ソックス、現在注力しているメディカル分野、この三本柱で進んで行こうと考えています。

河村織維株式会社

本社 ● 奈良県大和高田市大字野口218

創業 ● 昭和33年

事業内容 ● 靴下、レッグケア商品、パンティーストッキング、インナーウェアなどの企画・製造・販売

河村 ● そうですね。ないとは言い切

流行は目まぐるしく変わつていき



本社工場。

れません。というのも、何十年か経つと世代交代が起ころからです。昔に流行したものでも、若い方からすると目新しく見えるもので、実際に若いデザイナーさんが「こんな新しい生地があるんですよ！」と提案してきたものが、昔のパンストと同じものだったという笑い話があるぐらいで（笑）。

また、ニーツの多様化という点でも需要が増える可能性はあります。今の時代、皆が揃って同じものを身に着けるということはありえないですから、多様化の一つとして過去に流行したものが再び流行りだす可能性は十分あると思います。

添田 ● 本日はありがとうございました。

ます。常にアンテナを張り巡らして時代のニーズを把握することで、柔軟な商品開発につなげていくとともに、歴史や伝統を大切にしながらも様々な新しい分野に挑戦し、これまで培ってきた技術力を基に、当社にしかつくれない最高の一足をお客様に届けていきます。